

Rainbow Project 日本語版 会話：天気編解説

天気や天候に関する表現をただ覚えるだけでは、会話になりません。また、「いい天気です」「そうですね」で終わってしまっただけでは、会話は弾みません。天気や天候の話は、あくまで話のきっかけで、そこからどのように会話を広げるかが、日常生活では必要です。人見知りであっても、何らかの会話をしないといけない時に、とりあえず天気の話を持ち出して、そこから趣味嗜好、仕事、健康、衣食住などの話につなげていくことが、会話力の技術となります。天気編では、そういった会話の導入部分をいくつか実例として示していくことにします。また、話す相手によって待遇表現に違いが出ていることもご確認ください。

1. 一円玉天気やな

男性年長者とベトナム人女子学生の会話になっています。晴れきっかけで、天気予報の業界用語である「一円玉天気」の蘊蓄^{うんちく}を傾けています。「一円玉天気」は、1円玉はそれ以上崩せないことから、「快晴」「晴れの日が安定している」といった意味で使われています。

2. 今日は曇りみたいです

女性年長者と日本人女子学生の会話になっています。曇りの天気でも、暗いままで話を終わらせたくないような展開になっています。ここでは、ジブリ映画の『おもひでぽろぽろ』の有名なシーンを転用しています。

3. 雨の日に履くものはな～んだ

親子でなぞなぞをやっています。雨の時に、「はく」「きる」「さす」ものは何かを、母親が娘に聞いています。学習者にとっては、「長靴」「かっぱ」「傘」が、それぞれどの動詞と一緒に用いられるかを学ぶことができます。

なお、最後の方で娘が発する「ジェッコー」は、ずっこけを表す「ズコー」の強調による変種だとお考えいただければ、通じるかと思えます。

4. 狐の嫁入りやな

男性年長者と台湾人女子学生の会話になっています。晴れているけど、小雨が降っていることを「天気雨」あるいは「狐の嫁入り」と呼んでいます。何故、「狐の嫁入り」と呼ぶのかについては諸説あり、定説はありません。

余談ですが、イギリスやイタリアでは狐が結婚するようですが、諸外国では他の動物が結婚することがあるようです。

5. 上陸したみたいですね

女性年長者と日本人女子学生による、台風が来た時の会話になっています。天災時には、明るく会話を広げるよりは、心配して状況を聞くという方が自然な会話となるでしょう。無事通り過ぎてから、事後談として笑い話にできればいいのですが。

6. ベトナムって、雪降るん？

日本人女子学生とベトナム人女子学生の会話になっています。この項については、「ベトナムは雪が降るのか？」という質問以外は、台本無しで行なわれています。したがって、演技指導をしていないので、不自然な言い回しも現実では自然に出てしまうと捉えています。

7. 暑いですね

男性年長者と台湾人女子学生の会話になっています。「暑いですね」から、健康の話にむすびつけています。女子学生が一般論を相手に確認して、その後相手の日常を引き出しています。夏に冷たいものばかりとっては、バテてしまいますので、いい指摘でしょう。

8. 鍋でもする？

日本人女子学生と台湾人女子学生の会話になっています。「寒くなってきたから鍋でもする？」という設定以外は、台本無しで行なわれています。天候から食の話につながるというよくある会話です。鶏肉や木綿豆腐は、素直に話者の好みが出ています。

特典 天気予報って、117？ 177？

男性年長者とベトナム人女子学生の会話になっています。若い世代で、110 と 119 以外の電話による 3 桁サービスを知らない人が増えているようですので、意図的に入れてみました。ちなみに、117 が時報、177 が天気予報です。

余談ですが、1890（明治 23）年に日本で電話が開通しました。当時は申し込み順で電話番号が決まり、初回の加入者数は 197 名でした。その中で、たまたまですが、大隈重信が 177 であったことが記録に残っています。なお、1923（大正 12）年の関東大震災で通信機関が壊滅したため、その後は新たに番号が振り直されました。今の天気予報サービスとしての 177 は、1955（昭和 30）年から開始されたものです。